九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

夏季の気温がシクラメンの開花に及ぼす影響について

花田，勝美
九州大学農学部

竹下，繁
九州大学農学部

https://doi.org/10.15017/12686

出版情報：九州大学農学部農場研究資料. 13, pp.32-37, 1991-03. 九州大学農学部附属農場
バージョン：
権利関係：

夏季の気温がシクラメンの開花に及ぼす影響について

花田勝美・竹下　繁

1．はじめに

シクラメンはギリシャ，イタリアを中心とする地中海沿岸の広い範囲を原産地とするサクラソウ科の植物である。

地中海に浮かぶ島々や沿岸の500～700mぐらいの小高い丘や山の木や岩の陰に自生しているシクラメンは10～20℃を生育の適温とし，雨が少なく，日当たりも適当な，いわゆる冷涼寡雨の気候を好む植物である。

それゆえに，従来から我が国の夏の30℃を越える高い気温はシクラメンの生育と開花には好ましくないと言われている。そのため，栽培農家は夏季の高温を回避するために，夏の間だけシクラメンを冷涼な山間地で過させる（山上げ，山下ろし）高冷地栽培を行なっている。高冷地栽培のシクラメンは，平地の高温多湿の条件下での栽培と異なり，病害虫の被害は少なく，品質も優れ，その結果商品化率が高いと言われている。また，前述の如く花芽の分化や開花が促進されるので，開花時期が早くクリスマスから正月にかけての贈物として高価格で販売されている。

さて，平成２年の夏は暑さについては記録ずくめの夏だったと言われている。特に西日本の暑さが目立ち，福岡市でも日最高気温，日最高の最低気温及び夏の平均気温などに観測史上の新記録が誕生した。

本報告は蔬菜・花卉研究室の百葉箱における気温測定結果とシクラメンの時期別出荷鉢数から，1990年の記録的暑さの年と平均的暑さと思われる1988，1989の両年を比較することにより，夏期の高温がシクラメンの開花及び出荷時期を遅延することを明らかにしたものである。

2．調査・測定方法

(1) 温度の測定

各月の気温は蔬菜・花卉研究室の百葉箱の自記温度計により測定した。毎日の最高温度は0.5℃単位で読取り，日最高温度とした。

(2) シクラメンの鉢数

シクラメンの品種は一般種とパステル系の大輪種及びF_1系の中輪，小輪種を含む赤色とサーモン

ピンクを主とするものである。出荷は通常5輪以上開花した株を市場に出荷し，出荷の際の生産報告から旬別出荷鉢数を算出した。なお，1990年2月の出荷鉢数は1月末の生育状況から推定した予想の鉢数である。

3．調査・測定結果

1988，1989，1990年の3ケ年の6，7，8，9の4ケ月の外気温を測定した結果が第1～第4図である。6月は3ケ年とも18～31.5℃の範囲にあり，6／17日以後は22℃より低下しなかった。7月はいずれの年も7／5日以後24.5℃以下には低下しなかった。8月はいずれの年も25.5℃以下には低下しなかった。9月は1990年は9／12日まで30℃以上であったが，1988と1989の両年はその間それより4～5℃低い傾向があった。

第5図は各月の温度別日数を調査したものである。1990年は，6月に30℃以上の日数が8日あったが，1989年は1日，1988年は全くなかった。7月は，1990年は1988，1989の両年に比べて，35℃以上が1日と30℃以上の日数が数日多かった。8月は，1990年ではすべての日が30℃以上の気温であったが，1988年と1989年は25～35℃の温度範囲に含まれ，35℃以上の日は全くなく，前者より後者が30℃以上の日数が多かった。9月は，1990年は30℃以上が11日あったが，1988年1日，1989年は5日と半分以下の日数であった。

シクラメンの出荷鉢数は第6図に示した。6月から9月の4ケ月間に気温30℃以上の日数が73日と最も多い1990年には，シクラメンの出荷数は12月上旬が初出荷であり，41日の1989年と27日の1988年はそれぞれ11月上旬と中旬の初出荷であった。しかも，出荷のピークが1990年は12月下旬から1月下旬にわたって遅くなっているのと対照的に，1989年は11月の始めから12月一杯の年内に，1988年は12月中旬と前年内に存在した。

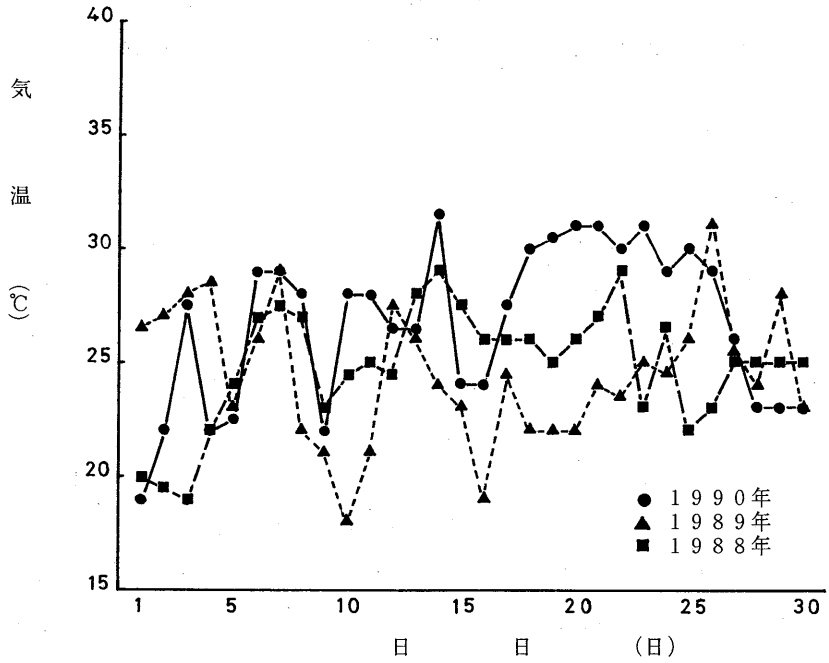
4．ま と め

地中海沿岸の山地や丘陵地を原産地とするシクラメンは冷涼寡雨の気候を好む植物である。それゆえ，我が国の夏季の6，7，8月及び9月の気温が30℃を越す環境下でのシクラメンの栽培は花芽の分化と開花を著しく抑制すると言われている。

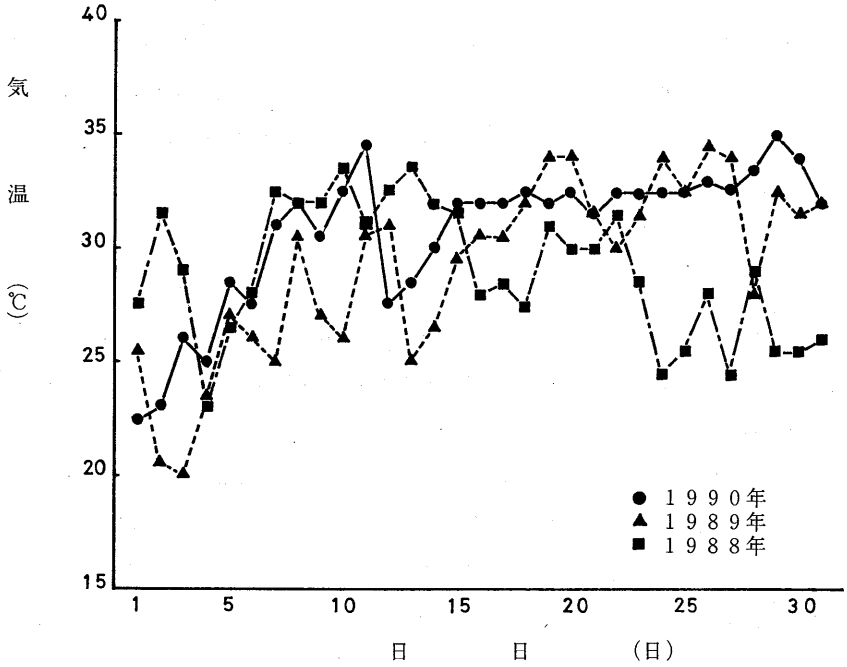
本調査は例年にない暑さに見舞われた1990年と，平均的な夏季の気温で経過したと考える1988，1989の両年のシクラメンの時期別販売鉢数を調査し，比較することにより，1990年の夏期の高気温がシクラメンの生育と開花に与えた影響を検討したものである。その結果，

(1) 1990年の夏季は最高気温38℃を記録し，30℃以上の日が73日にも及び，1988年及び1989年の約2倍の日数であった。

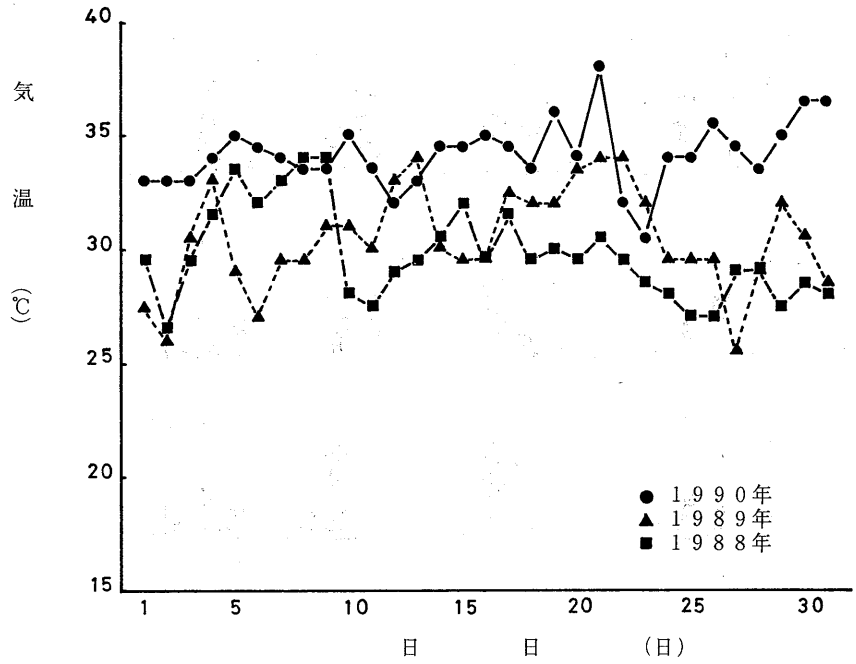
(2) 1990年は1988，1989の両年に比較して，アカダニとハスモンヨトウが異常に発生した。



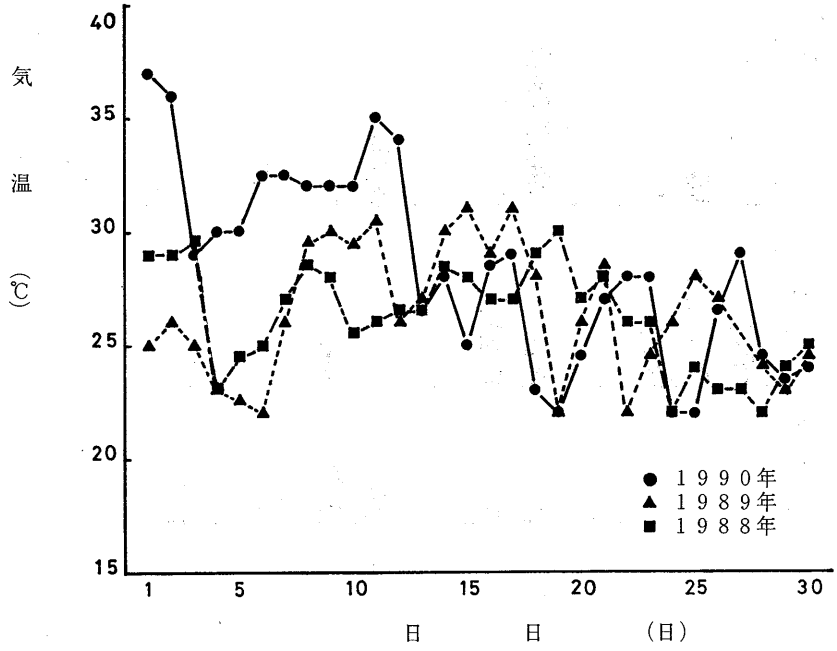
第1図　　6月の日最高温度



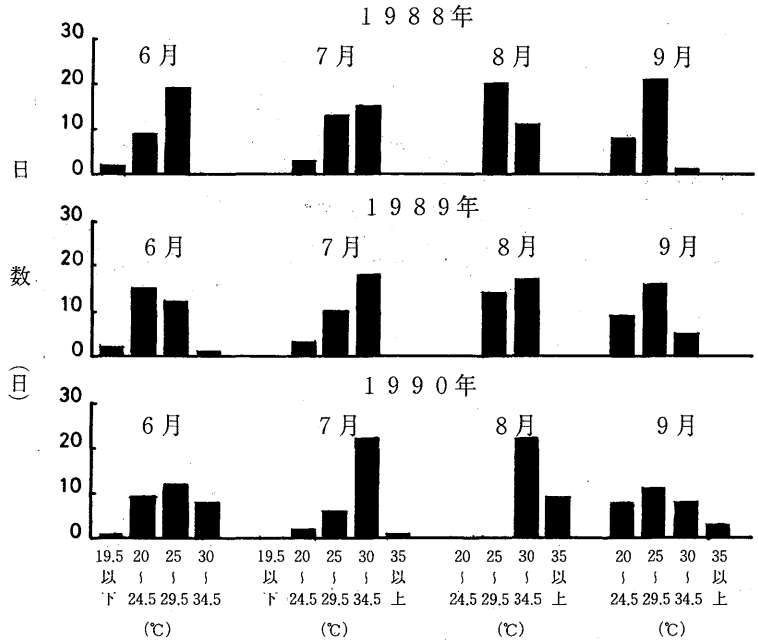
第2図　　7月の日最高温度



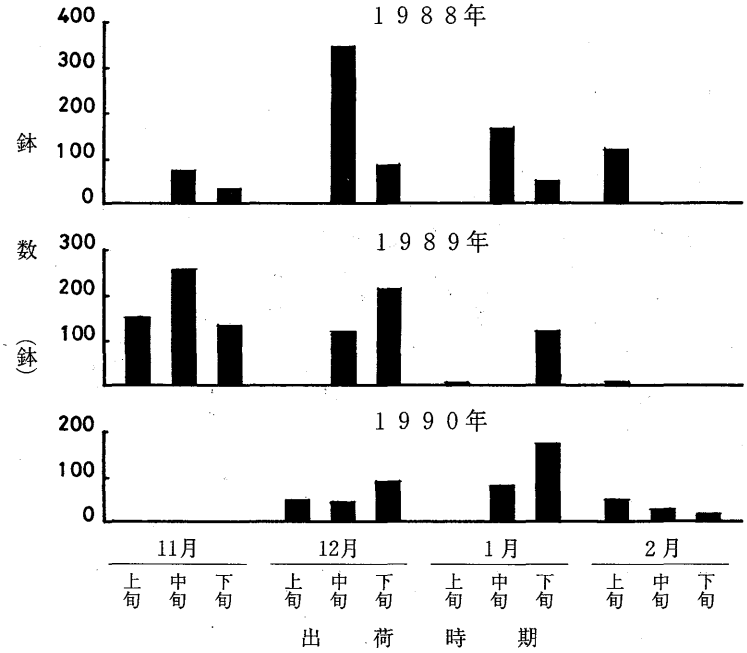
第3図　　8月の日最高温度



第4図　　9月の日最高温度



第5図　温度別日数



第6図　シクラメンの出荷鉢数

(3) 1990年のシクラメンは1988年，1989年に比較して，初出荷と出荷最盛期が約１ケ月遅れた。

以上の如く，西南暖地におけるシクラメンの栽培は，平坦地では夏季の気温が30℃を越える日数が40～50日以上になると，シクラメンの開花時期が遅延してくるものと推察される。このことは，シクラメンは年内に販売すべしと言う鉄則に反することになり，シクラメンの栽培農家にとっては高冷地栽培を含めた夏季の高温の回避策の検討が強く望まれる。

文　　献

1．工藤　忠：シクラメン，農業図書（1983）

2．平城好明：シクラメン，日本放送出版協会（1987）